

山行番 NO. 1633
 日時 2015. 02. 28 (土) 無風快晴
 山域 八ツ・赤岳 (2899m)
 標高差 上り 美濃戸約1480m～赤岳2899m＝約1419m
 下り //

タイム 下土狩5:00－美濃戸着7:28－発7:45－赤岳山荘8:13－行者小屋10:23
 一文三郎尾根分岐11:42－赤岳頂上12:12－行者小屋13:05－赤岳山荘14:
 28－美濃戸15:00－下土狩18:00

参考 今回・・・・・・赤岳山荘8:13～赤岳12:12＝約4時間
 2009. 2. 15・・・・赤岳山荘7:30～赤岳11:30＝約4時間
 2008. 4. 13・・・・赤岳山荘7:05～赤岳11:10＝約4時間5分

参加者 後藤 (単独)

今週の山行予定日は、日曜日だったが、悪天候予報だった。しかし、土曜日はサイコーの予報が出ていた。ここ数年、誕生月の2月は、厳冬期の八ヶ岳に上っている。誕生月に上って、来年の誕生日までの力量を試し占う。ここで、満足する結果が出なければ、この一年はロクなものにならない。これが夏では面白くない。2月の厳冬期だから面白い。2月に産んでくれた両親に感謝である。

そして2月の最終日、神様は見放さなかった。このサイコーの天気は、神様の第一の誕生日祝いと思ってイイだろう。当初、富士山山岳スキーの予定だった。ただ、八ヶ岳は気になっていた。計画を急遽赤岳に変更。会の仲間は誘ったが参加表明はなかった。しからばソロで行こうと決心。

これはやるっきゃない。ソロの場合、車の往復運転・緊急時の対応等問題は多いが、今回は仕方がない。またソロの場合、往復の距離を考えると八ヶ岳周辺が限度かも知れない。

5:00拙宅を出る。今日の天候を予想するように、納米里・ベスロンの煙突排煙は真っ直ぐ上っていた。これは吉兆。車の運転は何故か全く眠くなかった。小淵沢で降りて美濃戸着。通常、ここから柳川を渡り対岸に上り、赤岳山荘駐車場に着く。赤岳山荘まで標高差約200m・距離約2.7Kmで小一時間掛かる。

ところが上から車が数台降りて来る。先頭車両の助手席の方が、わざわざ降りて、この先の急坂で車が一台スタックし通行止めという。ここで突っ込んで時間を浪費したくなかった。素早く、美濃戸駐車場(1日＝500-)に駐車し登山開始。この試練??は、神様の第二のお祝いと良い解釈をした。

一人旅が始まった。天気は快晴無風高温。ヤッケ上着は不要だった。皆、同じように歩いていた。柳川先の急坂で1台の車が与太っていた。全く素人は困ったものだ。赤岳山荘に30分で到着。例の人工氷瀑が見事。ここから南沢を詰める。道は今年の大雪を象徴し完璧で歩き易かった。夏道は一步一步足場を選んで上るが、雪道はその必要がない分楽に上れる。南沢の上流でやっと連峰を仰ぐ。昨日、降雪があったようで、山々は光り輝いていた。同じ雪山でも降雪後の山が最も美しい。

久しぶりの行者小屋着。カラフルなテントが賑やか。実はここに東京の山仲間・Sさんがい



赤岳



行者小屋から横岳



阿弥陀岳



文三郎道の上り

たとは、翌日まで分からなかった。Sさんは仲間4名と今日来て赤岳に上り、テント泊で「2月の遅い新年会(??!!)」を敢行したそうな。SさんのHPに大宴会の写真があった。うーん、「タコが美味そうで」ご一緒したかった。(注=男は何故「タコ」が好きなのか不思議です)(笑い)

ここから文三郎道を辿る。途中、前のアベックを抜く。このアベック、私が下りて来たら、頂上まで30分のところにいた。いやはや、ノンビリしたものです。文三郎道中程で、赤岳主稜をクライミングするパーティーを見学。若い女性の声も聞こえた。私は40年前に終わった課題。急坂を上れば、阿弥陀岳分岐。ここまで来れば頂上は近い。天気は相変わらず安定していた。2月の山で、無風・快晴・高温は珍しい。ここから頂上まで30分。一年で雪が一番多い時期で雪壁が続く。

途中、片足幅のフット・ホールドが続く。落ちれば500mくらい飛びそうだ。慎重にクリアする。こんな所で風があつたり、降雪だったら最悪だろう。やっぱり2月の山は甘くない。初心者は厳しい試練となる。丁寧に上り頂上着。頂には多くの方が休んでいた。私は「証拠写真」を撮り、緊張感を持続しているうち、すぐ下山。普通、無風快晴の頂なら、ユックリしたいのが人情。これは以前読んだ書物にもあったが、ユックリ休むのは、ヤバい所が終わってからだ。特に頼る仲間がないソロの場合は、そうだろう。モチベーションを落とさないことが大事。これも「安全登山」の極意だろう。

頂上から急な雪壁を下降。中に後ろ向きで下る輩がいた。後ろ向きで下る程の傾斜ではない。後ろ向き下降は視界が狭く、むしろ不安定。前向きで下れる技術を身に付けるべきだ。また、直下でピッケルを持たない、ストック登山者が2名いた。この急傾斜をピッケルなしで、安全に下れるだろうか。下る時、ストックはピッケルのように、雪面に刺して上体を保持できない。また滑落時、制動を掛けられない。事故れば多くの人に迷惑が掛かる。ここにも「困った登山者」がいた。

阿弥陀岳分岐手前で、オジ・オバサンを含む中人数のパーティーがいた。上る時、道を譲ってくれたパーティーだった。まだ、こんな所にいたのかと驚いた。今日は天気が安定しているからイイが、これでは悪天候の場合、どうしようもない。要するに、下降が遅いのだ。文三郎道中程の急坂で、ピッケルのピックを刺しながら、這って上っている輩がいた。「ピッケルの石突きを刺して上ったら」とアドバイス。この方も無事下れるのだろうか。ほか、ズックで上っている輩とか、「山岳登山者」ならぬ「山岳旅行者」もどきが多い。

前回、2月上った時、「長靴登山者」いた。アイゼンなしで、ガジガジの雪道を歩いている。「それで、よく上れますね」と聞けば、「いつもそうだ」と言った。これには本当に驚いた。結局、行者小屋まで20名くらい、ゴボウ抜きし、ようやく休憩らしい休憩。少し食べてビアはやらす再び下山。何故か今日は腹が空かない。赤岳山荘までの道はスイスイで楽ちん。それにしても、下山者が少なく拍子抜け。宿泊者が多いのか。

美濃戸までの車道をショートカットしたら、エライ道だった。美濃戸駐車場に着いたら、車はまだ多く、下山していない様子だった。ソロは行動が速く軽快。土曜日の道路は空いていた。3Hで長泉着。イイ山だった。

過去の記録を調べた。パーティー・山岳条件もあるが、歳月が経過して割に、時間は変わらない。ま、ゼーゼー・ハーハーは、相変わらずですが。(笑い) それと、今回翌日の疲れが殆どなかった。やっぱり雪山は楽なのか。何故そうなのか研究課題です。



阿弥陀岳



文三郎道



赤岳西壁



赤岳下降

